

■教材・教具 ■聞き合い活動 ■サプライズ □ニーズの調整 □その他

1 本時のねらい 2/6 時

(2位数) × (何十何) の計算の仕方を図と式を用いて考え、説明することができる。

(数学的な考え方)

2 支援の工夫

① ワークシート

- ・ 図と式を用いて考えることができるように、図入りのワークシートを使う。
- ・ 容易にみかんの分け方を考えることができるように、ワークシートに図を入れておくことで、めあて以外の児童の負担を軽減する。
- ・ 分かりやすいようにワークシートと板書のレイアウトを同じにする。

② 穴あき問題文

- ・ 単元導入から同じ穴あきの問題を使うことで、前時と本時の相違点を明らかにし、既習事項が活用しやすいようにする。
- ・ 穴あき(□)の部分に付箋をはって数字を提示することで、かける数の違いが一目で分かるようにする。

③ (移動式黒板を使って) 意図的に解法を示す。

- ・ なおこさんやとしみさんを登場させ、意図的に式や図を読ませ、解釈する力をつける。

④ 考え方の共有

- ・ 発表する児童は、言葉だけでなく自分が書いたボードを使って明確に伝えることができるように、聞く側は視覚的にも友達の考えを知ることができるように、各班の考え方を書いたホワイトボードを黒板に貼る。

⑤ サプライズ (子どもの興味を引き付ける教材・教具)

- ・ はがせるのりを使って34個のみかんが30個と4個に分かれるようにしておき、まとめのときにそのみかんを使って操作する。

⑥ 視覚的支援

- ・ 今カードを随時移動させることで、黒板を見る際の視覚的な混乱を減らす。

⑦ 聞き合い活動

- ・ ホワイトボードを活用し、お互いの考えを比較しやすいようにする。

3 考察

○ 日頃より、「～をみんなで考え、説明しよう。」というめあてを設定することで、答えだけではなく、筋道を立てて考え、表現することの大切さを意識するとともに、「みんなで」という言葉から、「聞き合い」によりクラスみんなで学習して伸びていこうとする気持ちを大切にしている。

本時では、(2位数) × (何十何) の計算の仕方を考える場面で「聞き合い活動」を設定した。児童は、既習の「何十」をかける計算と1位数をかける計算を活用して、計算の仕方を考えていった。

ホワイトボードに式を書くだけでなく、図を描いて説明することで、より筋道立てて自分の考えを説明できた児童が多かった。また、ホワイトボードを小グループで利用することで、お互いの考えが比較しやすいメリットがあった。ホワイトボードという教具を介して、子ども同士がつながった「聞き合い」の場であったように思う。また、各班にペンを人数分用意したが、順番に書きながら発表したり、発表している友達の図に書き込みを入れながら質問したり、友達の間違いを消したり等、一人一人が活躍できる場があったので、よかった。

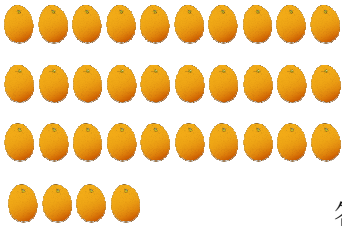
①ワークシート

1こ 23円のみかんを 34こ買います。
何円になりますか。

□式

23×34

○なおさんとちがう方法で、図や式やことばを使って考えましょう。



答え. 円

②穴あき問題文



③移動式黒板



④考え方の共有

⑦ホワイトボード



⑤サプライズ



⑥今カード

